

第 VII 章

参考資料編

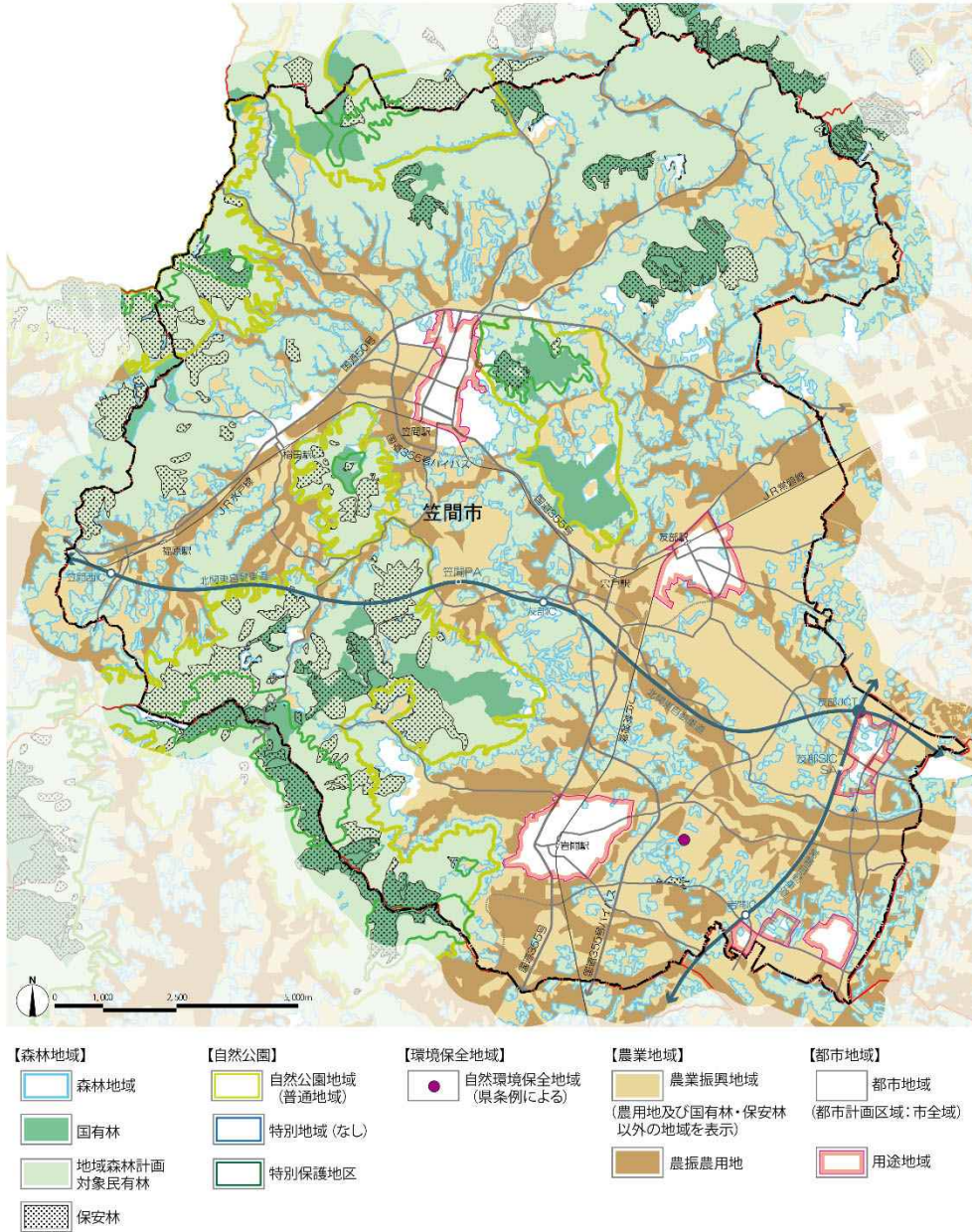


参考1. 笠間市の概要

参1-1 国土利用計画における法規制

国土利用計画法に基づく茨城県土地利用基本計画では、関連する5法(都市計画法、農振法、森林法、自然公園法、自然環境保全法)の施策対象となる5地域(都市地域、農業地域、森林地域、自然公園地域、自然保全地域)が定められ、各法に基づく土地利用規制と土地取引届出制度の運用が行われています。

平成29年(2017年)の計画見直しにおいて、本市では、用途地域の拡大や太陽光発電施設の増加により、農業地域や森林地域が一部縮小しています。



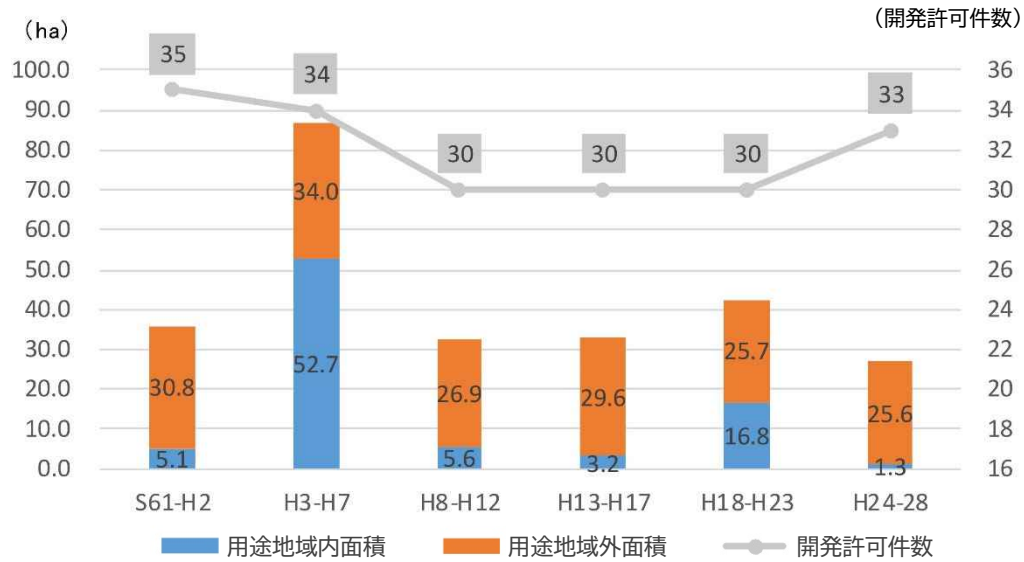
資料：国土交通省「LUCKY-土地利用調整総合支援ネットワークシステム」

図参考-1-1 国土利用計画に基づく土地利用規制の指定状況

参1-2 開発の動向

昭和61年～平成28年までの開発許可の動向を見ると、平成3年～7年以外については用途地域内よりも用途地域外での開発許可面積が多くなっており、本市における開発による都市化は主に郊外で進行していることがわかります。その中でも特に、友部市街地東部や南東部における開発許可件数が多いことから、これらの地域では都市化が進行しやすい要因があると推察されます。

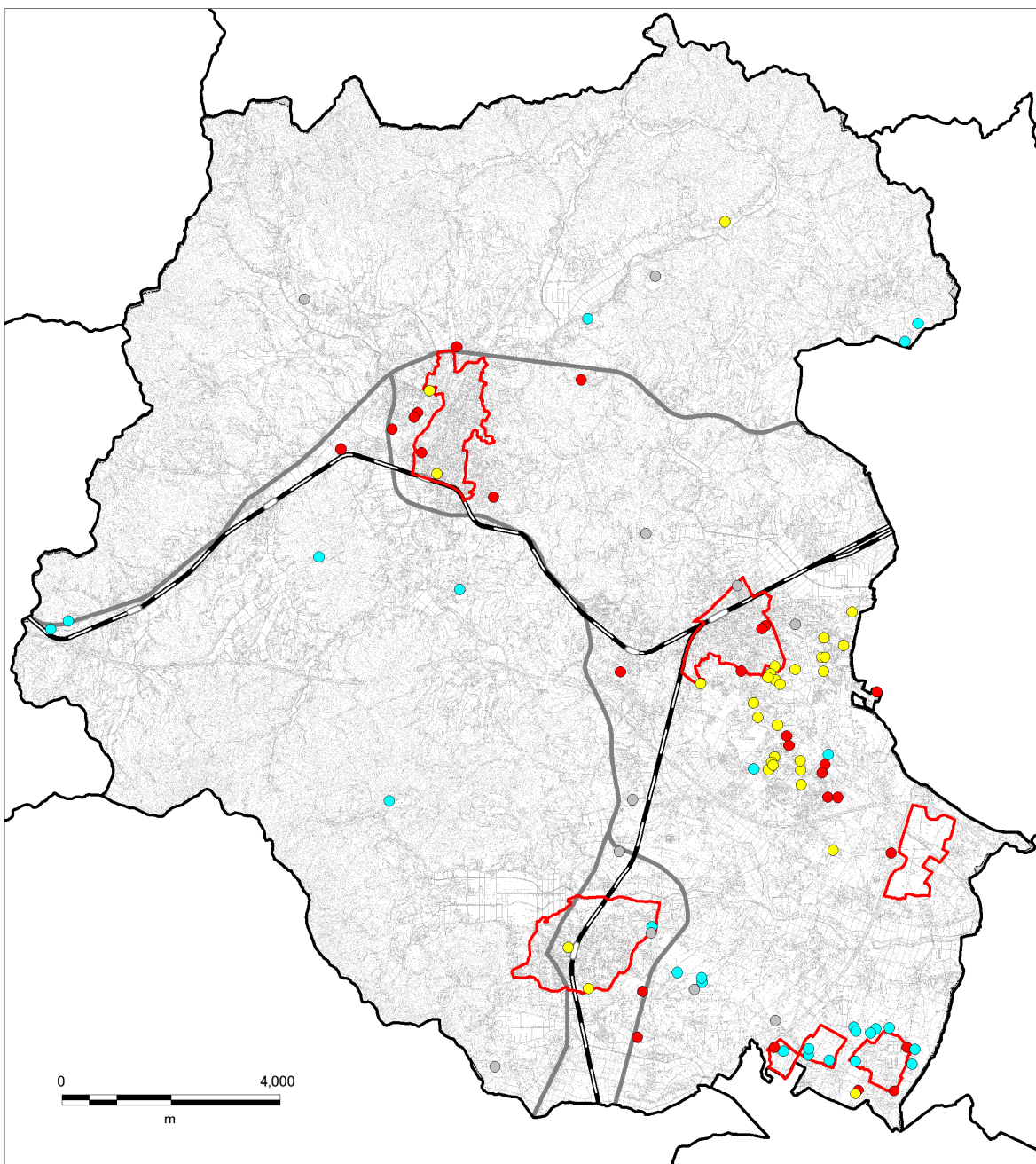
開発許可件数としては、各5年間でおおむね30～35件で推移し、一定数を保っていますが、昭和61年～平成2年までの間に比べると近年はやや減少傾向にあります。



資料：開発登録簿一覧(昭和61年～平成12年)

都市計画基礎調査(平成13年～平成29年)

図参考-1-2 開発許可件数の推移(昭和61年～平成28年)



【凡例】

- | | |
|-------|--------|
| 行政界 | 一般住宅 |
| 用途地域界 | 商業・流通系 |
| 鉄道 | 工業系 |
| 駅 | その他 |
| 国道 | |

資料：都市計画基礎調査（平成29年度）

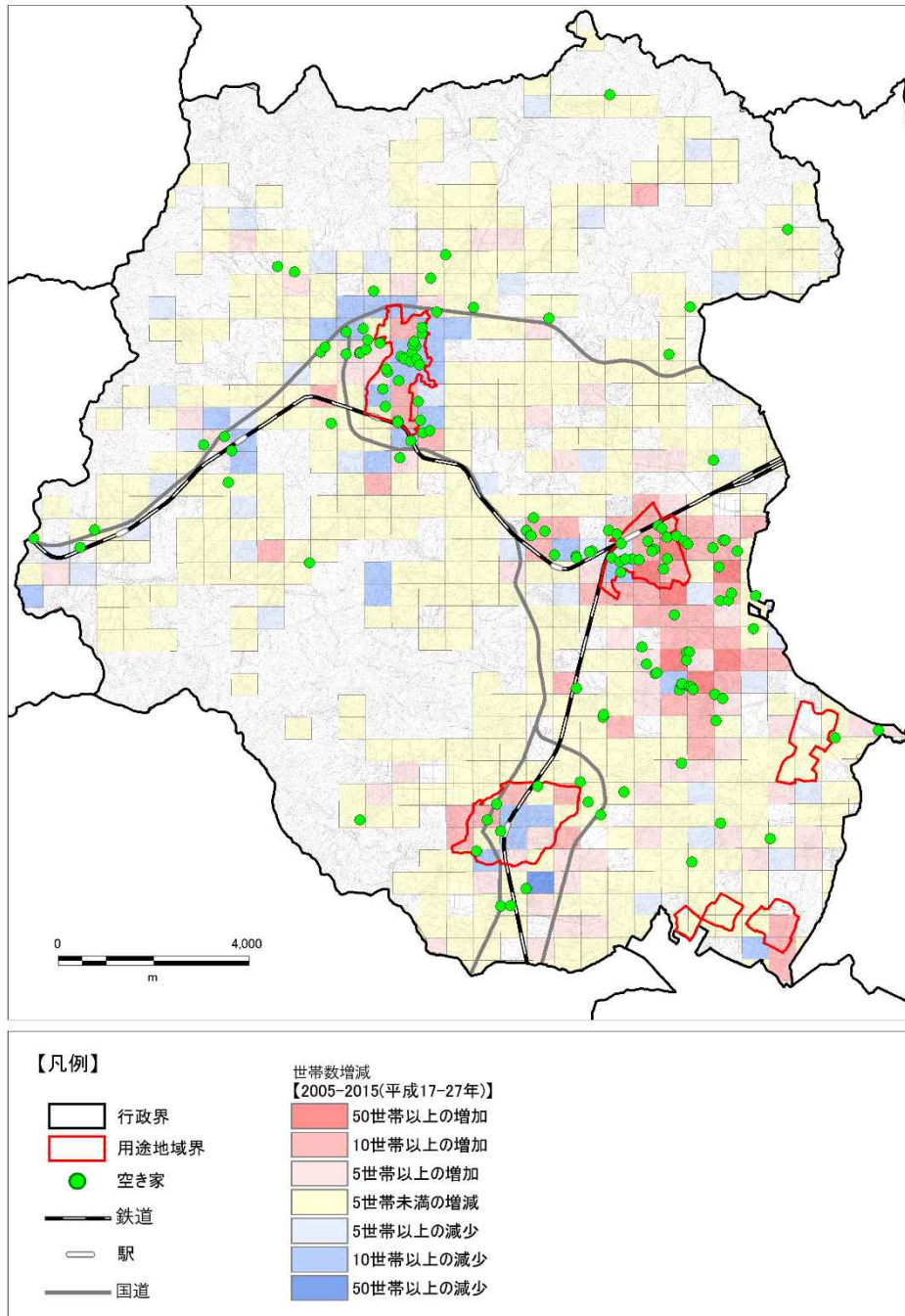
図参考-1-3 開発許可の分布（平成13年～）

参1-3 空家及び住宅着工の動向

市内の空家の分布と世帯数増減状況を重ね合わせると、笠間地区と友部地区の用途地域内に空家が集積していることがわかります。

笠間市街地については、世帯数が減少している地区において空家が集積していますが、友部市街地については、世帯数が増加しているにも関わらず空家が集積しています。

この結果から、特に友部市街地においては、世帯増加要因があるものの、その器である既存の住宅ストックが活かされていないことがわかります。



資料：25 笠まち（委）第13号空き家活用推進業務委託(平成25年)、国勢調査

図参考-1-4 空家の分布と世帯数増減状況(平成17年～平成27年)の重ね合わせ

参1-4 空地の動向

本市全体での空地の面積は2,049.6haとなっており、市域面積に占める割合は約8.5%となっています。空地の分布を見ると、大規模な空地は郊外部に多く、用途地域及びその周辺の地域には小規模な空地が点在しており、面積は用途地域内で174.7ha(用途地域の18.2%)です。

また、住居系の市街地別に見ると岩間市街地は、用途地域の面積に占める割合が12.5%と3市街地の中で最も高くなっていることから、市街地における低未利用地化による拠点機能の低下が懸念され、空地の有効活用が望まれます。

なお、一団の工業系市街地の空地の割合が高いのは、未分譲または未立地の用地があるためです。

表参考-1-1 空地率（平成29(2017)年）

区域	面積(ha)	空地 [※]	
		面積(ha)	割合(%)
友部市街地	193.8	16.8	8.7
笠間市街地	215.0	23.2	10.8
岩間市街地	310.0	38.7	12.5
一団の工業系市街地	243.2	96.0	39.5
用途地域	962.0	174.7	18.2
用途地域外	23,078.0	1,874.9	8.1
笠間市全体	24,040.0	2,049.6	8.5

注1) 空地：都市計画基礎調査における「原野・荒地・牧野」「その他の空き地」「駐車場用地」の合計

注2) 市街地毎の面積は、用途地域の都市計画決定状況や都市計画基礎調査、図上計測値からの推定値

資料：都市計画基礎調査（平成29年度）

参1-5 交通

(1) 道路

本市の道路網は、高速道路2路線、国道2路線のほか、主要地方道と一般県道を幹線として構成されています。このうち、高速道路については、常磐自動車道岩間IC、北関東自動車道友部IC、笠間西ICのほか、友部SAにスマートICが設置されており、広域自動車交通の利便性が非常に高いといえます。

表参考-1-2 国道及び県道の状況

区分	路線数 (本)	実延長 (m)	改良済延長 (m)	改良率 (%)	舗装済延長 (m)	舗装率 (%)
高速道路	2	25,075	25,075	100.00	25,075	100.00
国道	2	45,957	44,682	97.23	45,957	100.00
主要地方道	9	68,580	63,430	92.49	68,555	99.96
一般県道	12	51,685	36,421	70.47	48,742	94.31

資料：茨城県道路現況調書（H31.3.31 現在）

表参考-1-3 市道の状況

各年4月1日現在(単位:m)

年次	総延長	実延長	改良済延長：未改良延長					
			改良済延長	未改良延長	道路延長	橋梁延長	砂利道	舗装道
平成18年	1,504,788	1,448,205	542,149	906,056	1,444,125	4,080	539,994	908,793
平成26年	1,541,284	1,473,859	618,179	855,680	1,469,344	4,450	506,866	966,993
平成27年	1,542,794	1,474,806	621,922	852,884	1,470,291	4,450	506,121	968,685
平成28年	1,544,791	1,476,276	626,371	849,905	1,471,763	4,448	505,733	970,543
平成29年	1,541,835	1,474,242	630,698	843,544	1,462,535	4,457	500,060	974,182
平成30年	1,548,839	1,481,521	641,023	840,499	1,476,958	4,499	498,205	983,316
平成31年	1,552,050	1,485,806	651,194	834,612	1,481,233	4,508	496,575	989,231
令和2年	1,548,977	1,483,315	654,330	828,985	1,478,852	4,463	495,605	987,710

資料：統計かさま

(2) 鉄道

本市には、常磐線及び水戸線の駅が6駅あり、特に常磐線と水戸線の乗換駅となる友部駅は、特急停車駅でもあることから、首都圏方面への利便性も高くなっています。

鉄道各駅の乗車人員数は近年、横ばい又は減少傾向となっています。

表参考-1-4 駅乗車人員数の推移

(単位：人/1日平均)

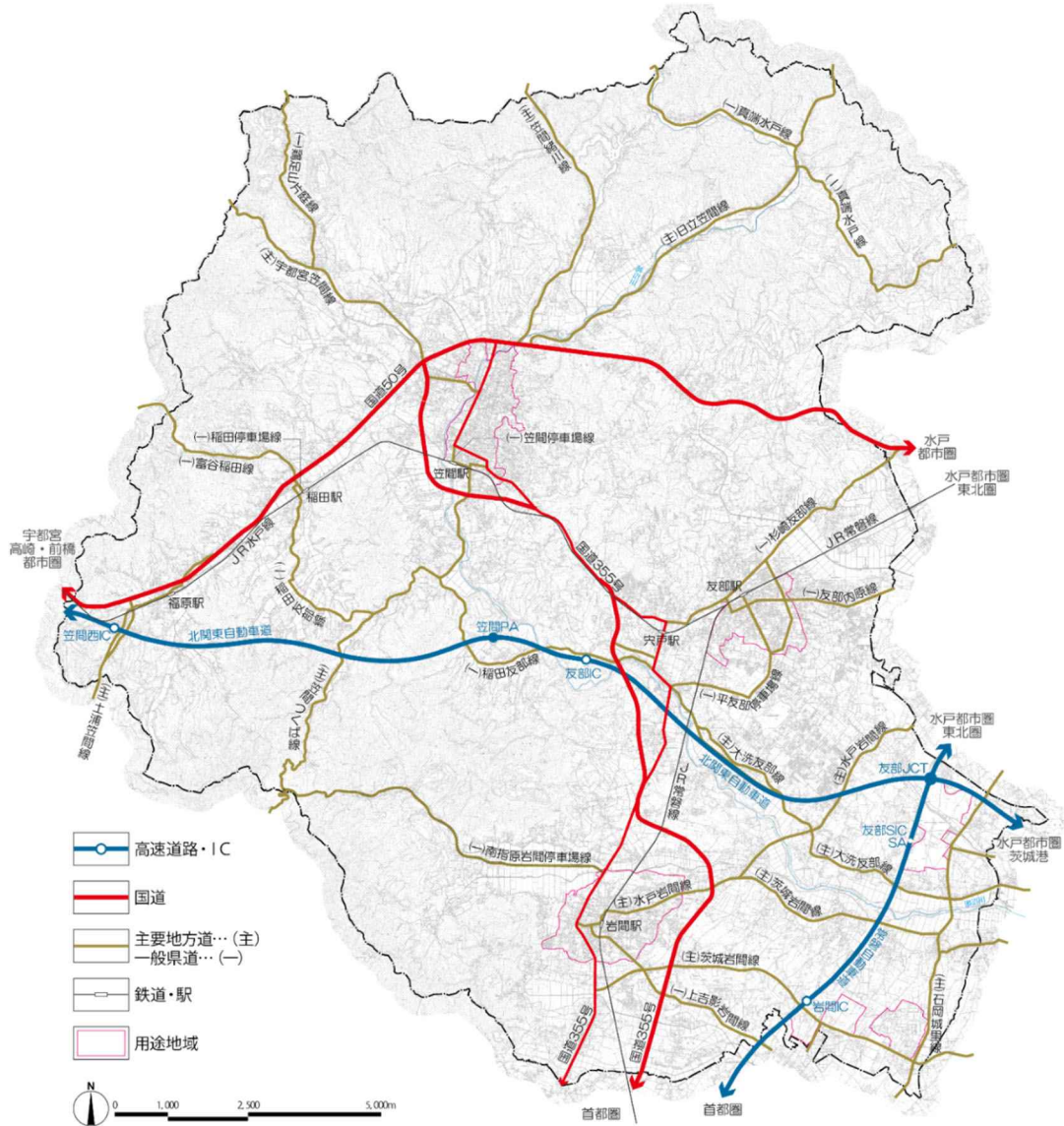
	H18	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01
友部駅	3,569	3,576	3,636	3,596	3,608	3,531	3,547	3,578	3,531
岩間駅	1,532	1,341	1,366	1,377	1,366	1,410	1,372	1,360	1,312
宍戸駅	567	443	454	411	412	391	404	—	336
笠間駅	1,642	1,405	1,403	1,374	1,420	1,367	1,372	1,342	1,292
稲田駅	259	205	200	176	161	155	162	168	197
福原駅	195	168	162	155	154	155	156	150	148

資料：統計かさま

(3) バス路線等

バス路線は、笠間駅、友部駅、岩間駅を中心として路線バスが運行されているほか、観光周遊を目的とする笠間観光周遊バスの路線が友部駅北口を起終点として設定されています。

また、予約制の乗り合いタクシー「デマンドタクシーかさま」が市内を3つのエリアに分け、市役所とショッピングセンターを乗継場所として運行されており、近年、その利用人数が増加しています。



図参考-1-5 国・県道、鉄道網

表参考-1-5 デマンドタクシー利用状況

(単位：人)

年度	利用者数 (延人数)	1日あたり利用者数	1ヶ月あたり利用者数	運行日数 (日)
平成 25 年度	47,017	195.9	3,918.1	240
平成 27 年度	53,121	188.4	4,426.8	282
平成 29 年度	61,218	211.1	5,101.5	290
令和元年度	59,246	206.4	4,937.2	287

注1) 平成 27 年 6 月より土曜日の運行開始

資料：統計かさま

参1-6 公園・緑地

本市には、市街地・集落地に16の地区レベルの公園が配置整備されているほか、丘陵上部や工業団地内に比較的規模の大きい都市レベルの公園が整備されています。

笠間市総合公園は面積23.5haの大規模公園であり、市民球場やテニスコートなどのあるスポーツを身近に楽しむことのできる公園となっています。

笠間芸術の森公園は、計画面積54.6haの県営公園であり、県立陶芸美術館のほか、スケートパークやイベント広場、あそびの杜を有し、隣接する笠間工芸の丘や県立笠間陶芸大学校と連携して、笠間焼などの地域の伝統文化を活かした広域的な観光交流拠点となっています。

北山公園は、県立自然公園内の国有林を林間レクリエーションや自然体験学習の場として活用する面積59.0haの公園であり、展望台や湿性生態園、オートキャンプ場などがあります。

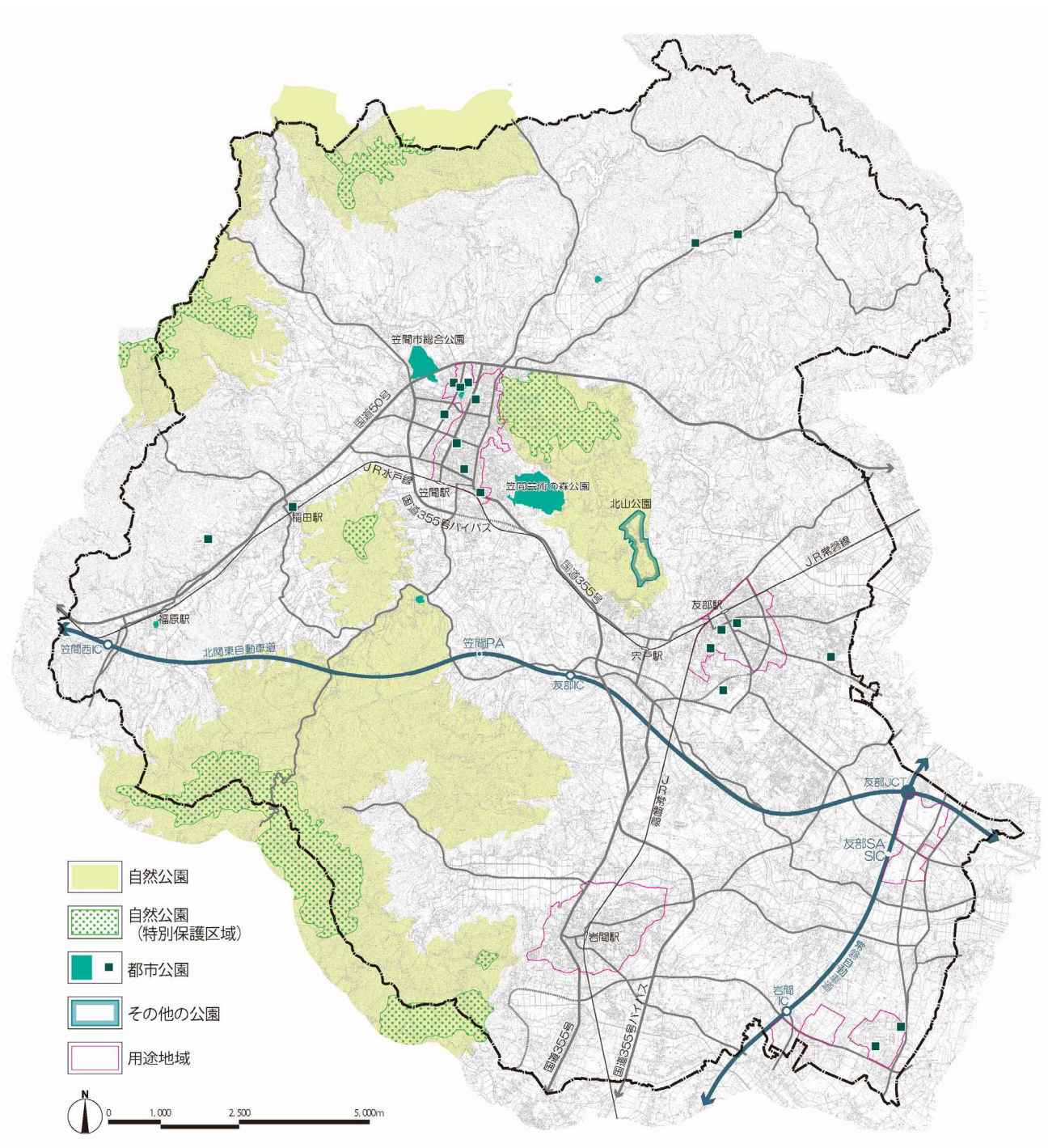
また、畜産試験場跡地地区には、様々な年代の方が多目的に利用できる笠間中央公園が整備されています。

これらの都市公園・緑地のほか、市域北西部の山地・丘陵地の計5,010haに及ぶ区域が笠間県立自然公園や吾国愛宕県立自然公園となっており、ハイキングや自然体験による交流の場となっています。

表参考-1-6 都市公園一覧

名称	所在地	面積 (千㎡)	供用年月日
鷹匠町児童公園	笠間 17-1	2.23	平成8年2月1日
程島児童公園	笠間 1725-7	2.72	平成8年2月1日
城南・やきもの通り公園	下市毛 591-1 の一部	1.70	平成15年6月12日
いなだふれあい公園	稲田 2315-1	1.15	平成15年11月25日
友部第一児童公園	八雲 1丁目 5-23	1.26	昭和41年4月1日
友部第二児童公園	中央 3丁目 3-1	5.64	昭和58年4月2日
友部駅前児童公園	東平 2丁目 1470-202	2.87	昭和55年5月17日
鯉淵公園	鯉淵 6269-15 外	5.64	平成22年3月20日
赤坂前公園	赤坂 15	2.40	平成11年4月1日
亀ヶ橋北公園	赤坂 18	2.00	平成11年4月1日
亀ヶ橋南公園	赤坂 19	4.00	平成11年4月1日
大池公園	赤坂 20	15.30	平成13年4月1日
笠間駅北街区公園	笠間 5095	1.38	平成14年4月1日
笠間ひがし公園	福田 961-2 外	7.69	平成8年2月1日
笠間にし公園	稲田 3-6	2.47	平成8年2月1日
大橋塚の宮街区公園	大橋 2365-46	0.50	平成15年3月12日
石井街区公園	石井 2068-1 の一部	2.13	平成14年11月21日
福原運動公園	福原 17-10	9.37	平成8年2月1日
高田運動公園	福田 3012-1	13.91	平成8年2月1日
南山スポーツ公園	北吉原 321-1	27.30	平成8年2月1日
笠間市総合公園	箱田 867-1	235.00	平成17年4月1日
笠間芸術の森公園	笠間 2345	384.00	令和3年3月15日
岩間工業団地第一公園	安居 2600-17	8.03	平成25年4月1日
岩間工業団地第二公園	安居 2600-31	9.21	平成25年4月1日
笠間中央公園	平町 1718-1 外	24.20	令和3年10月1日

資料：統計かさま



資料：都市計画基礎調査（平成 29 年度）

図参考-1-6 公園・緑地配置

参1-7 河川・上下水道

(1) 河川

本市には、涸沼川や涸沼前川、桜川など県管理の一級河川があり、涸沼川沿いには、多くのため池が設けられ農業用水として利用されています。また、涸沼川の上流部には支流の飯田川をせき止めた飯田ダムがあり、大量降雨時に導水路により涸沼川から分水して流量を調節しています。

涸沼川及びその支流は「涸沼川圏域河川整備計画」により河川改修が進められていますが、過去の大量降雨時に、笠間市街地を含む中上流部で浸水被害をもたらした履歴があり、近年の集中豪雨の雨量による浸水が想定されている区域があります。

(2) 上水道

本市の上水道は、令和元年度末現在、給水人口62,840人、給水戸数26,293戸、普及率83.4%となっています。

表参考-1-7 上水道の普及状況

年度	給水人口 (人)	給水戸数 (戸)	普及率 (%)	配水量 (m ³)		
				年間	1日平均	1日最大
平成18年度	70,842	23,645	86.9	8,011,720	21,952	25,881
平成26年度	63,881	24,760	81.5	7,756,969	21,252	24,561
平成27年度	63,513	25,005	81.6	7,808,849	21,336	24,197
平成28年度	63,573	25,328	82.3	7,928,208	21,721	23,490
平成29年度	63,321	25,636	82.6	8,164,788	22,369	24,518
平成30年度	63,124	25,977	83.0	8,040,015	22,027	24,218
令和元年度	62,840	26,293	83.4	8,091,222	22,107	24,511

注1) 平成22年度以降、給水人口及び給水戸数、普及率については、算出方法の見直しによる

資料：統計かさま

(3) 下水道

本市の公共下水道は、旧友部・笠間広域下水道組合と旧岩間町の公共下水道事業を合併継承した雨水・汚水分流式であり、友部・笠間処理区の浄化センターともべと岩間処理区の浄化センターいわまで汚水処理を行っています。

公共下水道計画区域は、笠間・友部・岩間の市街地(用途地域指定区域)及びそれに隣接する集落地の2,813haの区域であり、そのうち1,659haを事業認可区域として排水管渠などの下水道施設の整備を進め、令和元年(2019年)度末段階の行政人口に対する整備区域内人口の普及率は46.3%、整備区域内人口に対する水洗化人口の水洗化率は89.5%です。

雨水排水については、笠間地区に3路線、友部地区に2路線の都市下水路が整備されています。

公共下水道計画区域外の集落地では農業集落排水整備事業、公共下水道事業認可区域外及び農業集落排水整備事業区域外では合併処理浄化槽設置補助金交付事業による生活排水処理、公共水域の水質保全が図られています。

表参考-1-8 下水道・農業集落排水整備事業の普及状況

(公共下水道の普及状況)

年度	全体計画		認可区域面積 (ha)	供用開始区域		下水道普及状況		処理人口普及率 (%)	水洗化率 (%)	年間処理水量 (千㎡)	年間有収水量 (千㎡)
	面積 (ha)	人口 (人)		面積 (ha)	人口 (人)	戸数 (戸)	人口 (人)				
平成18年度	2,813	63,100	1,638	1,157	32,855	8,486	24,175	40.5	73.6	3,869	2,713
平成25年度	2,813	59,700	1,638	1,328	34,818	10,265	26,761	44.2	76.9	4,963	3,283
平成26年度	2,813	59,700	1,659	1,356	35,377	10,557	27,117	45.2	76.7	5,301	3,388
平成27年度	2,813	49,200	1,659	1,376	35,220	10,846	27,828	45.3	79.0	5,179	3,411
平成28年度	2,813	49,200	1,659	1,393	35,138	11,324	28,866	45.5	82.2	5,481	3,555
平成29年度	2,813	48,900	1,659	1,404	34,988	11,901	29,929	45.6	85.5	5,574	3,667
平成30年度	2,813	48,900	1,659	1,413	35,077	12,429	30,779	46.1	87.7	5,498	3,714
令和元年度	2,813	48,900	1,659	1,417	34,871	12,842	31,218	46.3	89.5	5,968	3,751

資料：統計かさま

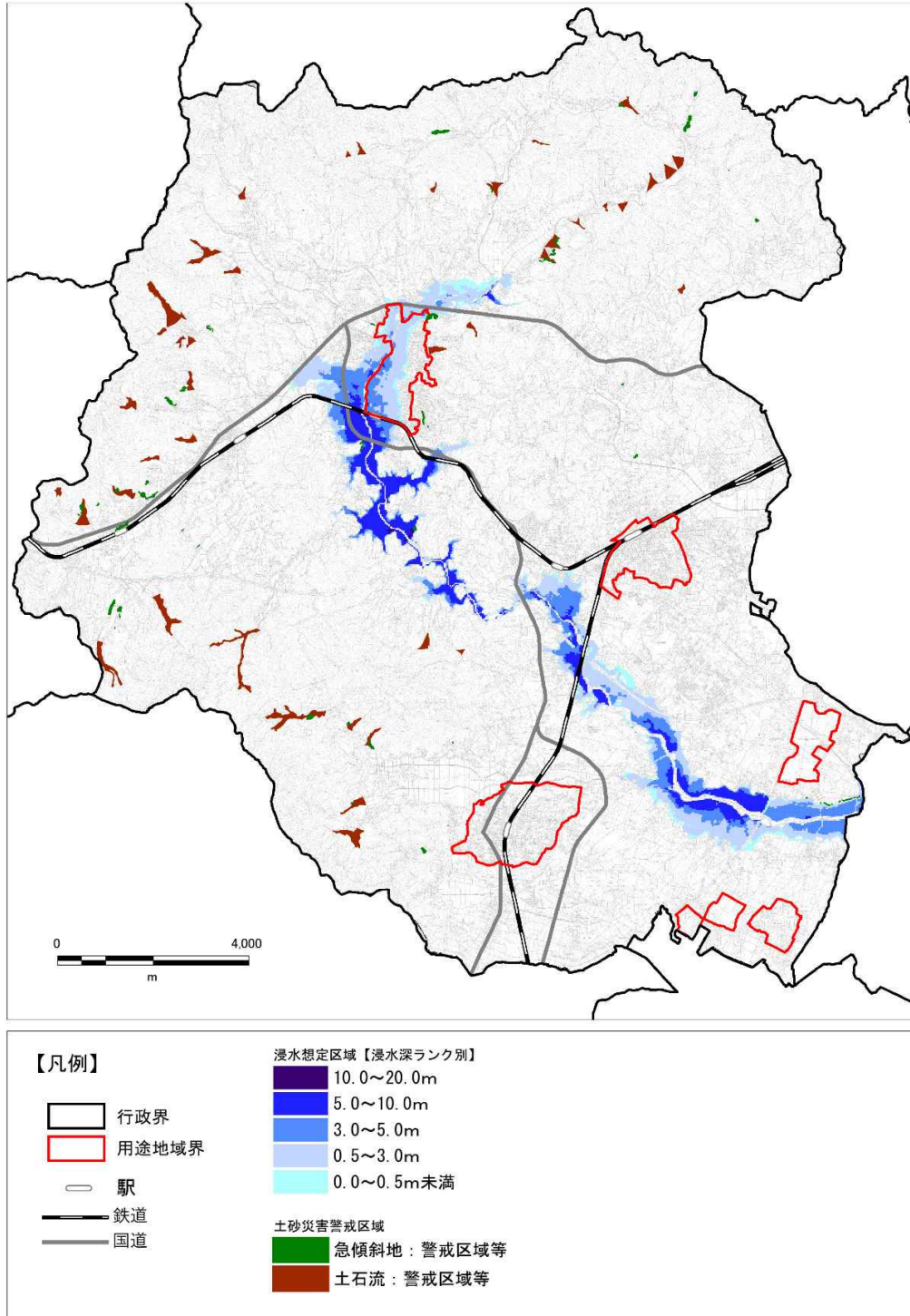
(農業集落排水整備事業の普及状況)

年度	事業区域面積 (ha)	供用開始区域		普及状況		処理人口普及率 (%)	水洗化率 (%)	年間処理水量 (千㎡)	年間有収水量 (千㎡)
		面積 (ha)	人口 (人)	戸数 (戸)	人口 (人)				
平成18年度	423	320	4,199	851	3,529	5.2	84.0	297	279
平成25年度	447	447	6,384	1,314	4,734	8.1	74.2	446	392
平成26年度	447	447	6,317	1,384	4,920	8.1	77.9	478	422
平成27年度	447	447	6,231	1,427	4,963	8.0	79.7	490	432
平成28年度	447	447	6,170	1,465	5,101	8.0	82.7	498	441
平成29年度	453	453	6,332	1,491	5,150	8.3	81.3	502	449
平成30年度	462	462	6,542	1,548	5,216	8.6	79.7	501	452
令和元年度	468	468	6,549	1,568	5,264	8.7	80.4	523	456

資料：統計かさま

参1-8 防災・安全

土砂災害警戒区域については、本市郊外部の丘陵地に多く点在していますが、用途地域内に指定されている箇所はありません。また、浸水想定区域については、涸沼川沿いを中心に指定されており、区域内には、笠間駅周辺の市街地が一部含まれています。



資料：国土数値情報 土砂災害警戒区域データ(平成30(2018)年)
国土交通省 洪水浸水想定区域図・洪水ハザードマップ
笠間市防災のしおり(ハザードマップ)

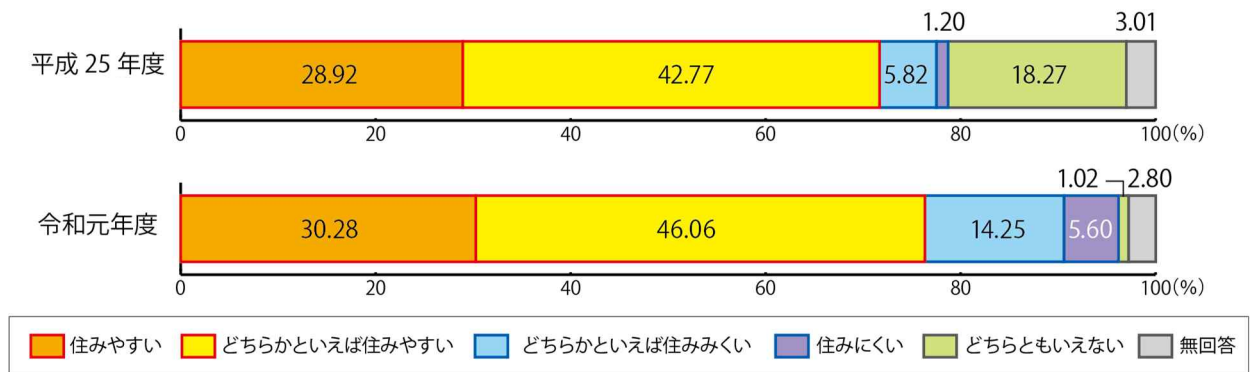
図参考-1-9 土砂災害警戒区域及び浸水想定区域

参考2. まちづくりに係る市民実感度調査

改定にあたり、まちづくりや都市計画に関する市民意識について把握するため、「市民実感度調査」の集計結果を基に、比較した内容は以下のとおりです。

(1) 住みやすさ

本市の「住みごこち」について、実感を5段階で評価してもらったところ、令和元年度(2019年度)調査では、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と肯定的に回答された方が併せて約76%に及び、平成25年度(2013年度)の約72%から増加しています。



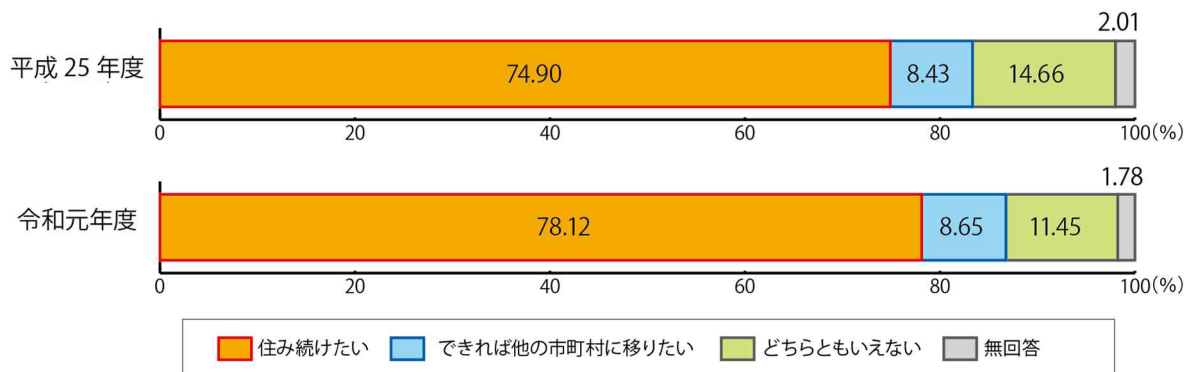
図参考-2-1 市民実感度「住みやすさ」

(2) 定住意識

これからも本市に住み続けたいか質問したところ、「住み続けたい」との回答が約78%で、その理由として最も多かったのが「自分の土地や家があるから」で約29%でした。

「できれば他の市区町村に移りたい」とする回答は約9%であり、その理由で多かったのは「交通が不便である」で約22%でした。

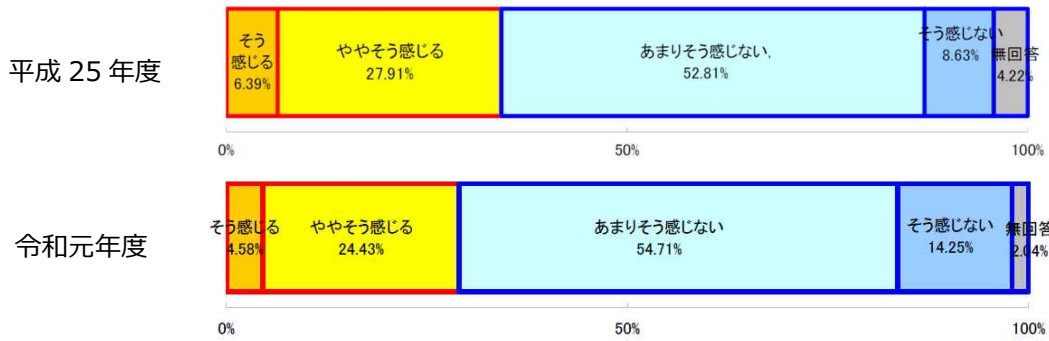
「住み続けたい」と回答した方は、平成25年度調査から約3%増加しています。



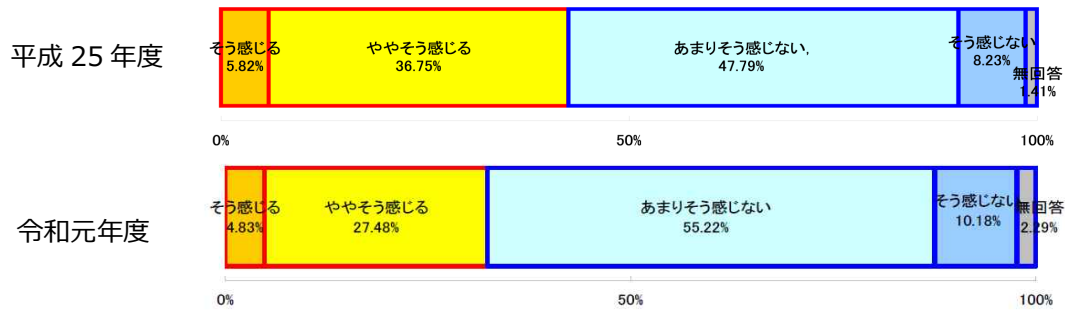
図参考-2-2 市民実感度「定住意識」

(3) まちづくりに関する実感度

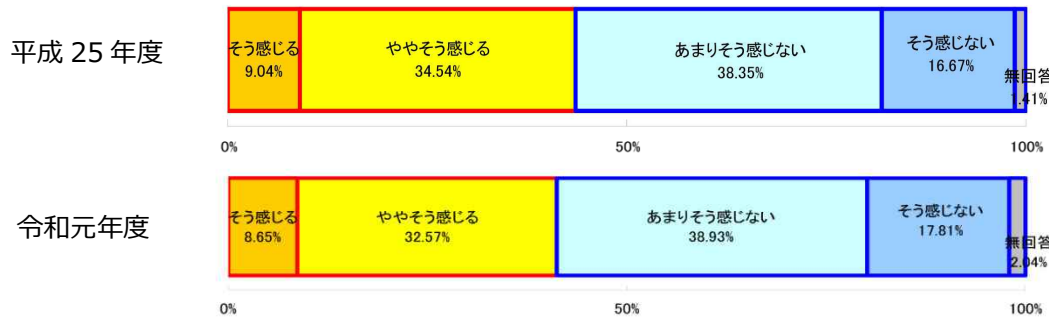
住環境に関する項目のうち、「生活環境や河川等の水質の改善」については、令和元年度調査において、肯定的な回答が平成25年度調査よりも多くなりましたが、その他の設問については全体的に「あまりそう感じない」「そう感じない」と否定的な回答が増加の傾向にあり、今後のまちづくりの課題として捉えるべき項目と言えます。



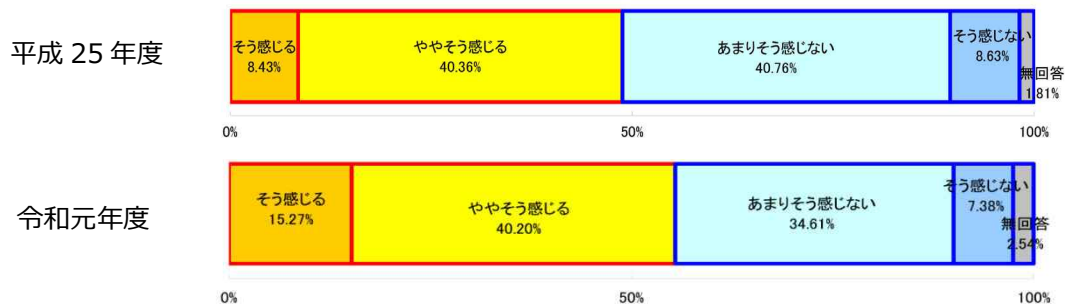
図参考-2-3 「市の特性を活かした土地利用」



図参考-2-4 「良好な住環境の形成」



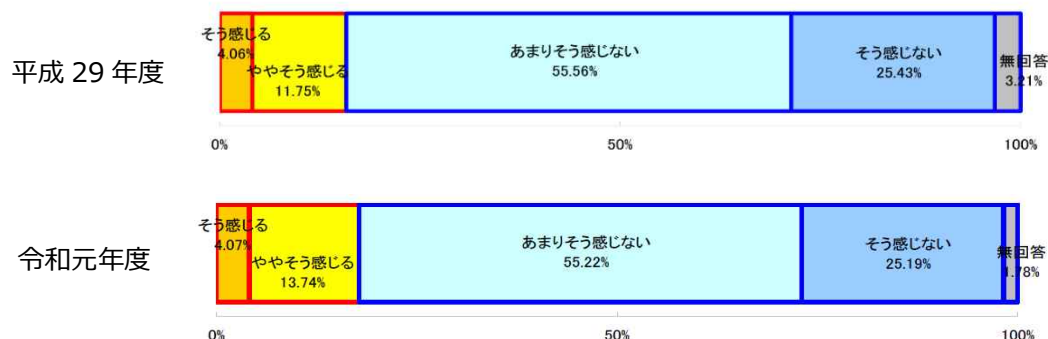
図参考-2-5 「地区内の道路環境の満足」



図参考-2-6 「生活環境や河川等の水質の改善」

近年、全国的に問題となっている「空家」については、平成29年度調査から質問を設け、令和元年度調査と比較したところ、平成29年度より「そう感じる」「ややそう感じる」は微増していますが、「あまりそう感じない」「そう感じない」との回答が約80%となっています。

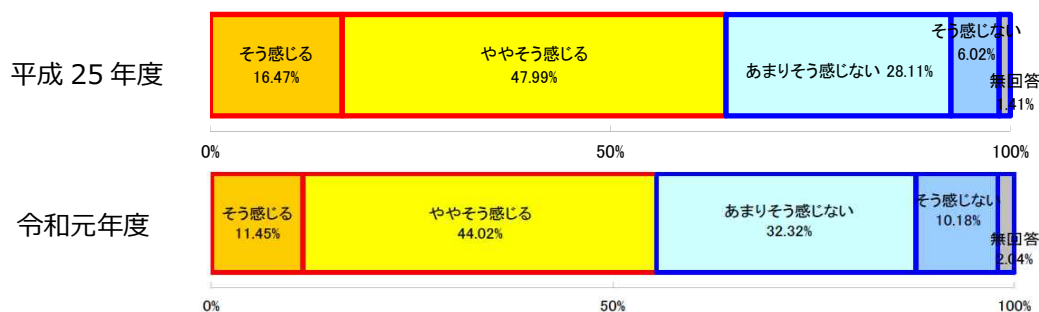
今後、空家の増加が見込まれることから、市民が実感できるような施策や制度が課題として挙げられます。



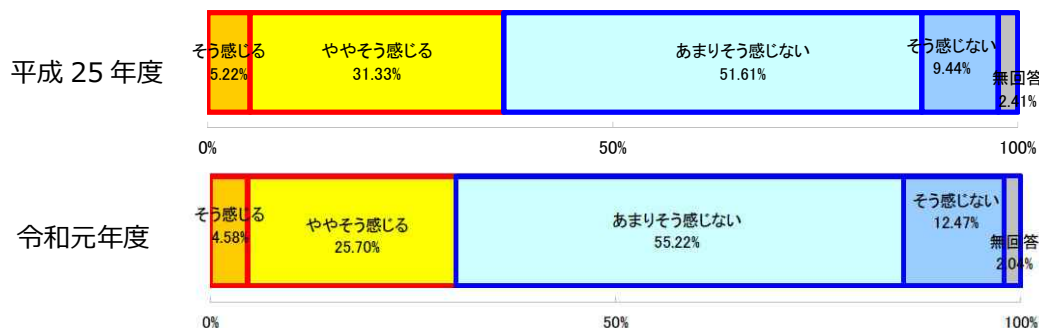
図参考-2-7 「空地・空家の有効活用」

まちづくりに関する質問については、「良好な市街地の形成」や「観光都市としての魅力の向上」、「自然景観の良好な保全」の項目について、「そう感じる」「ややそう感じる」との肯定的な回答が平成25年度よりも減少し過半数を割り込む状況であり、今後のまちづくりの課題として捉えるべき項目と言えます。

「憩いの場としての公園」や「快適で美しい水辺環境」の項目については、肯定的な回答が平成25年度よりも多くなっている状況であり、公園や自然環境などについては引き続き維持・向上を目指していくべき項目となります。

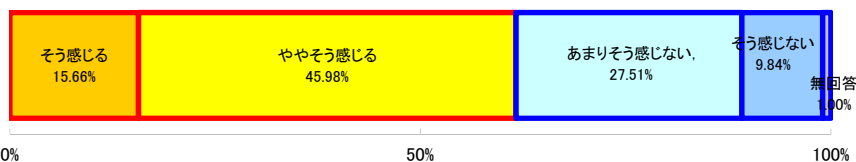


図参考-2-8 「市街地の移動しやすさ」

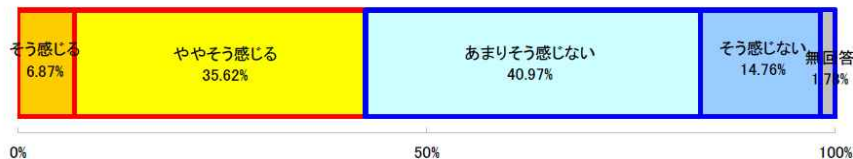


図参考-2-9 「良好な市街地の形成」

平成 25 年度

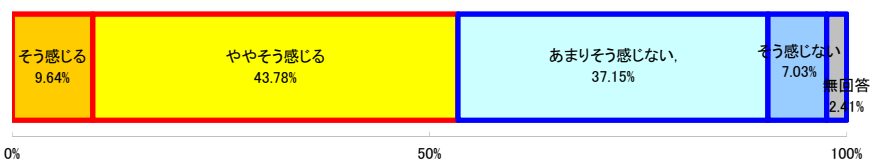


令和元年度

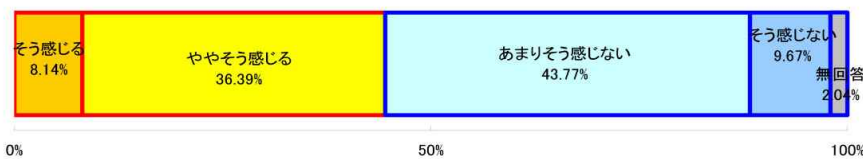


図参考-2-10 「観光都市としての魅力の向上」

平成 25 年度



令和元年度



図参考-2-11 「自然景観の良好な保全」

平成 25 年度



令和元年度

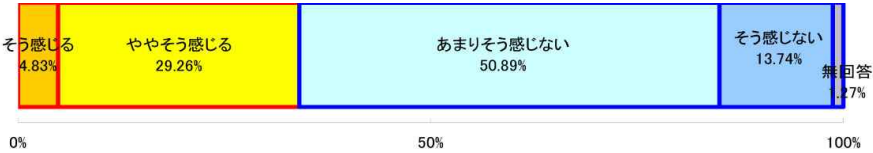


図参考-2-12 「憩いの場としての公園」

平成 25 年度



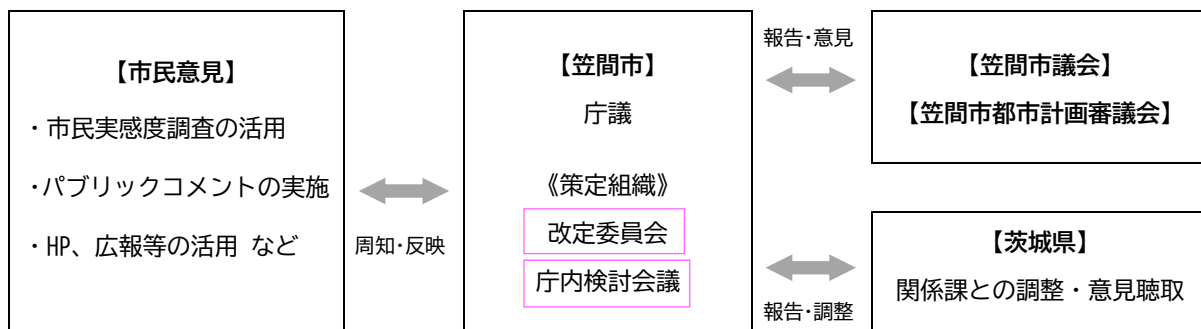
令和元年度



図参考-2-13 「快適で美しい水辺環境」

参考3. 策定体制

<p>笠間市都市計画マスタープラン 改定委員会</p> <p>【主な役割】 ・計画改定のため、都市計画やまちづくりに関する見地を有する者、各種団体、関係行政機関によって構成し、計画内容を協議、検討する。</p> <p>【委員構成】 ・学識経験者、各種団体(市議会、教育委員会、農業委員会、区長会、環境審議会、都市計画審議会、商工会、観光協会)、関係行政機関</p>
<p>笠間市都市計画マスタープラン 庁内検討会議</p> <p>【主な役割】 ・計画改定のため、庁内の関係各課によって構成され、検討内容についての協議、調整、原案の作成を行う。</p> <p>【委員構成】 ・庁内関係課職員(市長公室、総務部、市民生活部、保健福祉部、産業経済部、都市建設部、上下水道部、教育委員会、消防本部、農業委員会)</p>



笠間市都市計画マスタープラン改定委員会委員

(※敬称略)

所属等	氏名	備考
茨城大学（理工学研究科）	山田 稔	委員長
笠間市都市計画審議会	野上 寛子	副委員長
笠間市議会	坂本 奈央子	
笠間市教育委員会	戸田 浩二	
笠間市農業委員会	田山 悦子	
笠間市区長会	川崎 幸良	
笠間市環境審議会	吉武 和治郎	
笠間市商工会	岡村 浩	
笠間観光協会	本間 敬	
茨城県水戸土木事務所	羽成 英臣	

序
章

第Ⅰ章

第Ⅱ章

第Ⅲ章

第Ⅳ章

第Ⅴ章

第Ⅵ章

資料編

策定経緯

日付	項目	内容
令和3年5月25日	第1回庁内検討会議	・都市づくりの課題と将来都市像（案）について
令和3年6月28日	第1回改定委員会	・改定の趣旨及びスケジュールについて ・都市づくりの課題と将来都市像（案）について
令和3年8月26日	第2回庁内検討会議	・分野別方針（案）について ・地域別構想（案）について ・まちづくりの実現（案）について
令和3年9月27日	第2回改定委員会	・分野別方針（案）について ・地域別構想（案）について ・まちづくりの実現（案）について
令和3年10月26日	第3回庁内検討会議	・笠間市都市計画マスタープラン改定案について
令和3年11月19日	第3回改定委員会	・笠間市都市計画マスタープラン改定案について
令和3年11月26日	第1回笠間市都市計画審議会	・笠間市都市計画マスタープラン改定案について
令和4年1月4日	茨城県調整会議（書面開催）	・笠間市都市計画マスタープラン（案）について
令和4年1月22日～ 2月10日	パブリックコメント	・笠間市都市計画マスタープラン（案）について
令和4年2月21日	第2回笠間市都市計画審議会	・笠間市都市計画マスタープラン（案）について
令和4年3月	計画策定	

笠間市都市計画マスタープラン

令和4年（2022年）3月策定

< 編集・発行 >

笠間市都市建設部都市計画課

〒309-1792

笠間市中央三丁目2番1号

電話0296-77-1101（代表）



 笠間市